

病棟におけるNPPV・ハイフローセラピーの看護について

公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院

高橋 美稀

慢性呼吸器疾患患者がその人らしく希望する生活をおくることができるように、病棟看護師として「私たちに何ができるのか」を考え日々ケアを行っている。NPPV・ハイフローセラピーを使用している患者に対して、専門職として疾患や機器に関する知識を熟知することはもちろんのこと、患者・家族の思いに寄り添い具体的に行動できる看護の技を身につけることが必要となる。患者の希望を叶えるために、呼吸ケアチーム・NSTなどのチーム医療と連携を行ったり、また機器によるMDRPU予防に関しては皮膚排泄ケア認定看護と連携するなど多職種との連携が不可欠であり、それらをつなぐ中心的役割を担うことも病棟看護師として重要である。

NPPV・ハイフローセラピーが必要な慢性呼吸器疾患患者が早期に生活の場を在宅や地域にシフトさせるために、退院支援看護師と連携し介入を行っているが、病状の問題や患者・家族が在宅での生活を希望しない場合、地域での生活への移行がスムーズでない現状も経験する。現在、慢性呼吸器疾患看護認定看護師として患者教育やスタッフ教育、チーム活動など院内での活動を主に行っているが、今後地域医療スタッフと連携し、地域と病院とをつなぐ役割も担っていくことを課題としている。今回、NPPV・ハイフローセラピーの看護について病棟での2事例の看護を通して述べていきたい。